

2月 はせやまの風

舞鶴市立新舞鶴小学校だより

令和5年1月31日発行

白糸中学校区「目指す子ども像」

自ら学ぶ子・人とつながる子

心も体も鍛える子・ふるさとを愛する子

HP:shinmaizuru-maizuru.edumap.jp



双方向のやり取りを



「今日は大寒です。」と天気予報で聞いた辺りから、一段と寒さが厳しくなり、ついに雪が積もり、一面の銀世界が広がりました。朝から寒さも何のその、子どもたちは、いつもより早くランドセルから荷物を取り出し、朝の準備を終わらせると一目散に運動場へ。その後も休み時間のたびに、上着を着て手袋をつけ、いそいそと運動場に向かうと、友達と一緒に雪の上を走り回っていました。「子どもは風の子」という言葉は、今も健在です。保護者の皆様には、雪遊びでぬれた時のためにタオルや靴下の替えなどを準備していただき、ありがとうございます。

今、子どもたちは、毎冬恒例の縄跳びチャレンジにも熱心に取り組んでいます。練習している様子を見に行くと、次々に「見て、見て。先生、数えて。」と上達した姿を見せてくれます。まだ続けて跳べない子どもたちも、「縄跳びは、練習すればするほどたくさん跳べるようになるからね。がんばろうね。」と声を掛けると、がぜんやる気を出して跳び始める姿が見られます。友達と声を掛け合い、教え合いながら練習をする姿もたくさん見られます。素敵な光景です。



3学期は、まとめの時期。総合的な学習の時間の学習では、調べたことを伝えていくためにまとめる学習をしています。これまで聞いたり調べたりしたことを自分たちなりにまとめ、表現します。新聞にしたり、劇にしたり、どうしたらうまく伝わるのかを考えながら、活動をしています。そうやって、自分の言葉に置き換えることで、整理でき、理解が深まります。発表が楽しみです。

私たちはつい、話したから分かっているはず、教えたからできるはず、と思いがちです。でも、子どもたちは、まるで何も聞いていなかったかのように、失敗をすることが少なくありません。授業でも「教えてもらっていません。」とまじめな表情で話す子どももいます。忘れているのかもしれない。

では、どうしたら忘れないのでしょうか。自分のものとして身に付けることができるのでしょうか。そのためには、聞いたこと、教えてもらったことを自分の言葉で表すことが大切だそうです。話したり、書いたり、インプットしたことをアウトプットすることで自分のものにしやすいのです。一方方向ではなく、双方向のやり取りが大事なのです。学校では、授業中も「対話」することを大事にしています。問題について考え、それを自分の言葉で説明したり、友達の考えを聞いて、質問したり、「なるほど」と思ったことを話したり、書き表したりという活動を取り入れています。おうちでも、さらに子どもたちとの「対話」を楽しんでいただければと思います。



先日、保護者の皆様にアンケートをお世話になりました。十分な双方向のやり取りとはいきませんが、いただいたご意見を今後の教育活動に活かしていきたいと思えます。ありがとうございます。

まだまだ、寒い日々が続きます。いつも寒い中、登下校の見守りをありがとうございます。保護者の皆様、地域の皆様には、子どもたちが元気に過ごし、力を発揮することができるように、引き続き見守っていただきますよう、よろしくお願いいたします。校長 小森 昌子